

令和2年度 児湯るびなす支援学校 学校評価のまとめ（職員、保護者、学校評議委員・学校関係者評価委員） ○評価区分 4：期待以上である 3：ほぼ期待どおりである 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

学校目標		児童生徒一人一人のいのちを尊重し、それぞれの多様な学びにきめ細かく寄り添い、支え、地域とつながる日々の学校生活を通して、児童生徒が共生社会の一員として、自分らしい生き方を創造することを目標に、保護者・地域から信頼される活力ある学校づくりを進める。				
経営ビジョン		1 教育課程の充実（1）多様な学びを支える教育課程の編成と実施（2）キャリア教育の視点をいかした学習活動の展開（3）地域の人材や資源をいかした学習活動の充実 2 知肢併置校としての専門性の向上（1）授業力の向上を中心に据えた校内研究の充実（2）外部専門家との協働による研修の充実（3）ICT機器等を活用した学習活動の開発（4）医療的ケア体制の充実 3 安全安心な学校生活を送れる体制整備（1）防災・避難訓練等の計画的実施と防災教育の強化（2）ホームページや情報メールを活用した情報共有と危機管理 4 地域支援・連携の推進（1）地域における学校・各機関が有する特別支援機能強化の支援（2）小・中学校、高等学校との交流および共同学習の推進。				
項目	重点目標	職員評価	保護者評価	学校の自己評価(主な成果・課題等)	学校評議員評価・感想等	今後の改善策
重点目標1	知肢併置校としての魅力ある学校づくり	3. 2	3. 5	個別の支援計画及び指導計画に関しては、個別面談の機会を確保するようにしている。保護者の評価が高いのは、学校が保護者に丁寧に説明を行っている事で保護者の評価は高い。職員の評価が低いのは、特に今年は参観日、個別面談など、保護者と話し合う時間が限られたことによるところが大きい。新学習指導要領にそった具体的な目標・指導計画・評価を作成し、根拠に基づいた教育の実践が続けられるよう努めたい。	3. 3	○小中高の指導内容が連結した、一貫性のあるものにしていただきたい。また個に応じた指導内容と卒業後の社会生活を見通したキャリア教育の充実をお願いしたい。 ○保護者が評価が高く、職員が低いのは自己向上や改善を考えていることであり良いことである。定期的な職員間での見直し等が必要である。 ○タブレットの活用では児童生徒の指導だけではなく、教師間、保護者ともに勉強会を行い、卒業後の生活での支援ツールとしてほしい。 ○ICTについては教師の活用力の個人差を埋めるための情報の共有、能力に応じた作業を分担しての共同学習もよいと思う。 ○ホームページをさらに効果的に活用し、学校の教育活動をPRすると共に、行事予定を知らせていただき、学校行事に参観できる工夫をしていただきたい。 ○防災においては一番大切なのは自助努力だと思うので引き続き保護者の防災意識を高められるよう研修をお願いしたい。 ○西都児湯地区の特別支援教育相談の役割を果たしている。引き続き連携、支援をお願いしたい。
	【教育課程の充実】	2. 9	3. 2	キャリア教育に関しては、全体計画にそって全職員で取り組んでいる。各学部での取り組みに対し、保護者は概ね期待通りとしているが、小中高の指導内容や目標が段階的で一貫したものになっているかの検討がされていない点があり、職員の評価は低くなった。児童生徒の発達段階に応じた将来の自立、社会参加を目標にした、小中高一貫したキャリア教育の推進に努めたい。	3. 0	
		2. 7	3. 1	本来であれば、新富町郵便局、新富町商工会、秋月鼓童（太鼓指導）、といった地域の資源を活用して様々な実践を行っているが今年中止や縮小が続き評価が低かった。しかし、アートフェス・作品展（西都原考古博物館）の開催、中止となった小学部修学旅行の代替としてこゆ財団に協力を仰ぎ地域資源をいかした校外学習を実施することができ本当にありがたかった。これからも地域と連携した学習を実施し、児童生徒の主体的活動につなげていきたい。	3. 0	
重点目標2	主体的に学びあう教師集団の育成	3. 0	3. 4	「子どもの実態に応じた支援方法のあり方」をテーマとして、個別の指導計画に基づく授業実践や評価を教員間で共有する研究を行った。学部を越えた教員間の研究授業参観ができない状況の中ではあったため職員の評価が低くなった。保護者に対して研究について報告する機会を工夫して保護者への啓発につなげていくことが課題である。	3. 5	○町と連携し防災の意識の向上をはかる。町の人材を活用し（防災士）職員、保護者の研修を行う。 ○実践的な訓練を繰り返し行い、問題点を解決していく。 ○居住地校交流、交流籍を積極的にに行い、児童生徒の地域とのつながりを深めていきたい。 ○各地域の小中学校と連携し職員研修、授業研修に積極的に参加する。
	【知肢併置校としての専門性の向上】	3. 7	3. 3	外部専門家による研修の実施は、リモートやビデオ視聴による研修となった。（熊本県立松橋支援学校によるカリキュラムマネジメントの取り組み、合わせた指導・自立活動の指導実践）コロナ禍での研修を模索し実践できたことで職員の評価は高くなったが、保護者と共に参加できる研修を組むことが難しかった。今後は、保護者と共に学ぶ研修について考えていきたい。	3. 6	
		3. 1	3. 1	学習に使用する文房具ではなく児童生徒の合理的配慮としての ICT 活用という視点が重要だが、まだ、その段階にいたっているとはいえ職員・保護者とも低い評価になった。臨時休校中にリモート授業の試行を行い、現在は訪問教育学級の授業や集会活動にリモートを活用している。活用およびセキュリティについての研修と授業実践を並行して行っていくことが求められる。	3. 0	
重点目標3	安全・安心な学校生活を守る体制整備	3. 1	3. 5	小・中・高等部各2名の対象児童生徒に対し3名の看護師を任用し、安全に教育活動を行うことができた。職員の対応の質が向上し、学校でのケアの回数が減ったり、出席日数が増えた生徒もあり、臨時休校中も居場所のない2名の生徒が学校で過ごすことができた。1名の生徒が、臨時休校中に急逝したことが非常に残念であったが、改めて学校の医療的ケアの重要性を再認識することができた。	3. 3	
		3. 3	3. 4	本年度は、コロナ禍における避難訓練ということで、密を避け、短時間でいける避難訓練を実施した。昼休みを活用した抜き打ち訓練や給食で非常食を食べる学習など、できるだけ実践に近い内容の防災学習を行った。新富町の防災担当による PTA むけの研修や児童生徒が実際に非常食や自分で準備している防災食を食べてみるという実践を行ったこと、ホームページや情報メールを積極的に使用したことで、保護者の防災に対する意識は少しずつ向上していると考え。今後は新富町に提出している避難準備計画を職員が実際に使用できる学校版 BCP として更新し保護者に伝えていくことが必要である。	3. 6	
重点目標4	地域支援連携の推進	3. 3	3. 2	本年度は、児童生徒の通学路となっている第2駐車場のかさ上げ工事、管理棟と小学部棟を結ぶ渡り廊下の軒および風水よけの設置、プールの修繕、倉庫の設置等を行っている。来年度も修繕箇所等について県と協議し計画的に進めて、安全・安心な環境づくりに努めたい。	4. 0	
		3. 1	3. 1	チーフコーディネーターを中心に、地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校、高等学校からの要請相談や巡回相談を行っており地域からのニーズは高いが、校内での理解がしづらい状況から評価が低いと考えられる。市町村教育委員会との連携を行い、小中学校・高等学校と協働できるような研究や研修会の実施などコーディネーター以外の職員の連携や支援機能の強化が求められる時期に来ていると感じる。	3. 3	
		3. 1	3. 2	居住地交流については、昨年県教育委員会からの依頼を受け、副次籍の研究に取り組んだ事で、高鍋町や新富町とも情報交換しながら子どもたちにとっての個別最適な学びの場について研究すすめることができた。反面、実際の交流および共同学習の実施が中止となったり高等学校との交流がなくなったりしたことで、職員・保護者とも低い評価となった。今後は交流および共同学習の目的や意義を洗い出し、障がい児者の理解啓発としての交流学習ではなく「共に学ぶ」ための授業の工夫や開発を行っていくことが必要であると考える。	3. 0	